

保健福祉・協働委員会委員長報告

保健福祉・協働委員会における審査の経過並びに結果についてご報告いたします。

本委員会に付託されました案件は、「甲第108号議案 令和3年度岡山市一般会計補正予算（第1号）について」ほか3件の議案についてであります。

これらの審査に当たりましては、当局の説明を聴取し、慎重に審査いたしました結果、いずれも全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

それでは、審査の過程で特に議論となりました、甲第108号議案 令和3年度岡山市一般会計補正予算(第1号)についてのうち、感染症予防事業についてご報告いたします。

これは、感染者数が一定水準を超えた場合、高齢者入所施設の従事者を対象に定期的なPCR検査を実施するものです。

委員から、感染の早期発見を図るとのことだが、もっと早くに行うべきではなかったかとの質問があり、当局から、昨年よりPCR検査の対象者を順次拡大してきたところであるが、感染者が増加している現状を鑑み、重症化しやすい高齢者への予防的観点や医療体制の逼迫を防ぐため実施するものである、との答弁がありました。

また委員から、当該事業のほかにも、増加する推定感染経路不明者や20代、30代への対策、高齢者ワクチン予約への対応など多

くの課題がある。市民の立場にたち、先手を打った施策を実施してほしいとの要望がありました。

さらに委員から、自宅療養中に亡くなった方がおられると聞いている。命の大切さを十分認識しないといけない。現状の課題や最近の特徴を分析した上で、傾向や対策の情報発信、体制整備等を行うべきであるとの強い指摘があり、当局から、入院調整のさなかで起こった事態であったが二度と起こってはいけない。感染が急拡大する中、いかに拡大を抑えていくかを根本に、若い世代も含め、いろいろな角度から取組を進めてまいりたいとの答弁がありました。

また、別の委員から、感染拡大が続く中、市民が現状を認識し行動変容に繋がるような分析と広報が必要ではないかとの質問があり、当局から、今後更なる感染拡大も懸念される。より分析を行い効果的な広報に取り組んでまいりたいとの答弁がありました。

以上、本委員会における審査の経過をご報告いたしましたが、このほかにも審査の過程で、さまざまな意見や要望が出されました。当局におかれましては、それらの意見や要望に十分留意され、事務事業の執行に当たられますよう申し添え、保健福祉・協働委員会の報告を終わらせていただきます。